



一般会計化に伴い新たな体制でスタートした九州森林管理局

局長交代

平之山 前 局長は林野庁
林業・木材産業情報分析官へ
後任は 川端 前 経営企画課長

4月1日付で平之山俊作前局長が林野庁林政部林政課林業・木材産業情報分析官(林政部企画課併任)に転出し、後任に川端省三・前林野庁国有林野部経営企画課長が就任しました。

なお、新局長の略歴は次のとおりです。



かわばたしょうぞう
川端 省三

(東京都出身：55歳)

- 昭和57年4月 農林水産省入省(林学)
- 平成3年4月 北海道営林局厚賀営林署長
- 平成5年4月 長野県林務部林業課技術専門職
- 平成7年4月 長野営林局企画調整室長
- 平成10年4月 林野庁業務課企画官(森林都市)
- 平成11年8月 林野庁職員厚生課課長補佐(労務管理班担当)
- 平成14年4月 林野庁業務課課長補佐(総括)
- 平成16年4月 関東森林管理局日光森林管理署長
- 平成17年8月 林野庁業務課技術開発調査官
- 平成20年7月 林野庁治山課長
- 平成21年10月 林野庁業務課長
- 平成24年7月 林野庁経営企画課長
- 平成25年4月 現職

九州国有林の新たな体制

一般会計化に伴い、公益的機能のより一層の発揮や森林・林業再生への貢献といった国有林に求められる役割を十全に果たすため、国有林の内部組織が再編されました。九州森林管理局

業再生への貢献といった国有林に求められる役割を十全に果たすため、国有林の内部組織が再編されました。九州森林管理局

昨年の第180回国会で成立した「国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律」等の一部を改正する等の法律により、平成25年4月1日から、一般会計の下での国有林野事業がスタートしました。

一般会計での国有林野事業がスタート

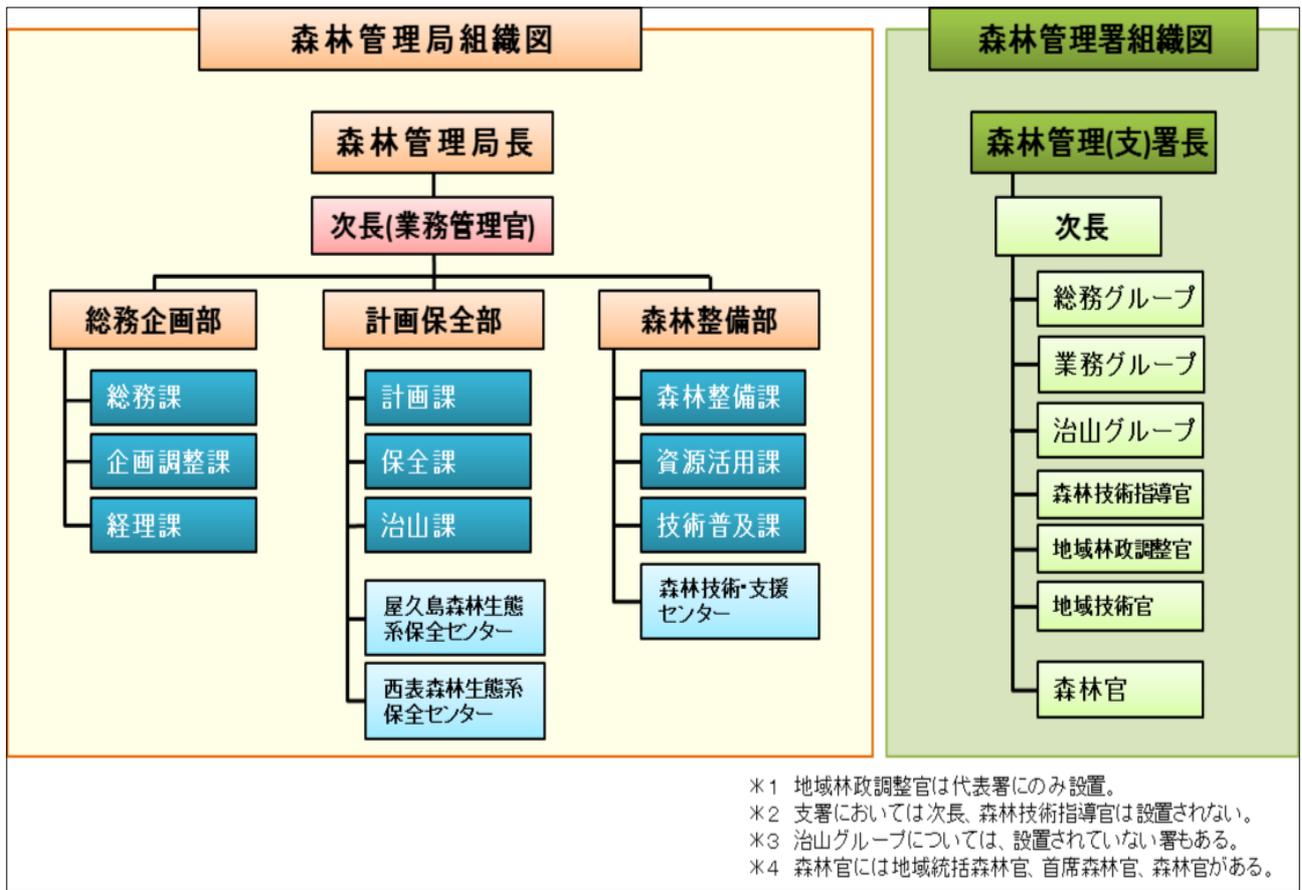
新たな「国民の森林」を旨指し4月1日より

- 民有林との連携や技術支援を一層推進するとともに、内部管理部門の効率化等を図るため、以下のとおり再編。
- (1) 森林管理局に新たに「次長(業務管理官)」、「地域木材情報分析官」などを設置。
 - (2) 部については、内部管理及び企画調整業務を一体的に行う

の新たな組織の概要は次のとおりです。

1. 森林管理局
地域の森林・林業の再生に向け、

- 「総務企画部」、公益重視の管理経営の推進を図る「計画保全部」、及び森林・林業再生への貢献を図る「森林整備部」の3部を設置。
- (3) 課については、次のとおり設置。
- ア 総務企画部に総務課、企画調整課、経理課を設置。
- イ 計画保全部に計画課、保全課、治山課を設置。
- ウ 森林整備部に森林整備課、資源活用課、技術普及課を設置。



2 森林管理署・支署
 (1) 現行の16署・1支署の体制を維持するとともに、県など民有林施策との連携・調整を一層進める観点から、「代表署」を位置づけ(福岡署、佐賀署、長崎署、熊本署、大分署、宮崎署、鹿児島署、沖縄署)。「代表署」には「地域林政調整官」を設置。

(2) 各業務に機動的に対応する観点から、課・係制を廃止し、グループ制を導入。(「総務グループ」、「業務グループ」、「治山グループ」)

(3) 森林官の管轄「区域を見直し」、「森林官」、複数担当区を管轄する「首席森林官」、「地域統括森林官」を設置。

3. 森林技術・支援センター
 現行の森林技術センターを改組し、地域の森林・林業の課題解決に向けた技術開発・人材育成を支援する

「森林技術・支援センター」を設置。

4. 森林生態系保全センター
 現行の屋久島森林環境保全センター及び西表森林環境保全ふれあいセンターを改組し、主として世界遺産地域や森林生態系保護地域をフィールドにした生態系の管理等を行う「森林生態系保全センター」を各々設置。

これまでの経緯・・・
一般会計移行の背景

昭和22年の林政統一以来、国有林野事業は林産物収入などをもって人件費や事業費を支弁する企業特別会計により管理運営されてきました。特別会計制度の下で、国有林野事業は戦後復興期における木材需要拡大などに貢献してきましたが、木材価格低迷への対応の遅れなどにより危機的な経営状況に至りました。このため、平成10年に成立した国有林野改革関連2法に基づき抜本的改革に全力で取り組んできたところです。

野事業については、単に国有林にとどまらず、民有林と協働しつつ、国有林と民有林の一体的な整備、木材需要の開拓、技術的支援などを通じて我が国の森林・林業の再生へ貢献していくことが求められています。

また、特別会計改革の観点からも、平成24年1月に閣議決定された「特別会計改革の基本方針」において、国有林野事業は特別会計から一般会計に移行することとされました。

こうした状況を踏まえ、平成24年6月21日に、「国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する等の法律」が成立し、平成25年4月1日から、国有林野事業の組織・事業の全てを一般会計に移行することとされました。なお、債務については新たな国民負担とせず、暫定的な特別会計により林産物収入等で返済することとしています。

今後、国有林野事業は、「公益重視の管理経営の一層の推進」「森林・林業再生への貢献」を大きな柱として、一般会計としての新たな体制で「国民の森林」である国有林の管理経営に取り組んでまいります。

(担当)企画調整課

シカ対策の大苗植樹に期待

【大分森林管理署】 獣害防止ネットを設置せずにシカ被害を防ぐ方法として、スギ大苗を2月下旬に試験的に500本植付けました。これは、シカに食害されない高さである樹高150cm以上の苗を植えることで、下刈りの省略や植付け本数の減少で、造林全体の大幅なコスト削減になることが期待されることから、藤川内森林事務所が発案し、当署のプロジェクトとして事例調査や検討を重ね、九州森林管理局と森林総合研究所九州支所の協力を得ながら行っています。当日は冷たい雨が降り出した中、この試験の成果に期待を膨らませ、多くの職員で作業を行いました。なお、この結果は流域管理システム推進発表大会で発表する予定ですのでご期待ください。



試験的に植樹したスギ大苗＝大分

機械による搬出作業の安全点検を行い、午後から地元公民館で、労働災害防止対策などの意見交換を行いました。本協議会を通して関係機関が連携を密にして、

3者で連絡協議会を開催



協議会で情報交換を行う参加者＝鹿児島

【鹿児島森林管理署】 当署管内長尾国有林の森林整備事業実行中の現場で、鹿児島、加治木労働基準監督署および北薩署、屋久島署の事業担当者や当署の森林整備事業実行中の請負事業者が参加し、労働安全衛生確保対策連絡協議会を開きました。午前中、作業地内で高性能林業

多発している林業事業の労働災害防止対策について情報交換をしていくこととしました。

小学生がマツを植樹

【福岡森林管理署】 福岡県宗像市の上灘国有林でさつき松原管理運営協議会の松原再生プロジェクト事業の一環として、抵抗性クロマツ苗植栽が行われました。はじめに、当署職員が植樹手順の説明を行った後、地元自治会住民などのサポート受け、玄海小と玄海東小学校生50人余りが、松が立派に育つようお願いを込めて丁寧に500本を植付けました。去年参加した児童もおり、作業は30分程度で終了。その後、保護者からの差し入れを頬張りながら、植え付け個所を満足げに眺めていました。



クロマツ苗を植樹する参加者＝福岡

地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の策定及び変更の公表について

九州森林管理局では、管内の各森林計画区について、国有林野の管理経営の方向などを示す「地域管理経営計画」を、国有林野の伐採、造林等の箇所別計画量などを示す「国有林野施業実施計画」を、それぞれ5年を1期として順次定めています。

この度、下記森林計画区の平成24年度における地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の策定及び変更について公表しましたのでお知らせします。

なお、公表内容については関係局署に掲示される公表文もしくは九州森林管理局HP (<http://www.rinya.maf.f.go.jp/kyusyu/>) の「公表事項」をご覧ください。(担当＝企画調整課)

【第4次計画策定】 佐賀西部、長崎北部、球磨川、大分西部、大淀川、大隅、宮古八重山

【第3次計画の変更】 筑後・矢部川、緑川、大分北部、五ヶ瀬川、南薩、沖縄北部

【第4次計画の変更】 遠賀川、福岡、佐賀東部、長崎南部、五島壱岐、対馬、白川・菊池川、天草、大分中部、大分南部、耳川、一ツ瀬川、広渡川、北薩、始良、熊毛、奄美大島



熊本南部森林管理署

次長

前田 道博

熊本県水上村・宮崎県椎葉村・西米良村にまたがる標高1720・8級の市房山は米良三山（市房山・石堂山・天包山）のひとつであり、球磨・米良地方における信仰の山で、旧暦3月15日に「お岳参り」が催され、県内外から多くの方が登山されています。信仰の山として紹介しましたが、霊峰市房山を神体



山頂から見る市房ダム付近の眺望



市房ダム上流付近から市房山を望む

米良三山信仰の山 霊峰「市房山」

として、山中の本宮・四合目に鎮座する市房神宮（中宮）・湯前町の里宮神宮（下宮）の3社で構成されています。市房神社（中宮）は縁結びの神様として名高く参拝すると良縁にめぐり会えるとされています。なお、市房神社（中宮）までの参拝が難しいため市房神宮の遥拝所として昭和9年に再建されたものが里宮神宮（下宮）です。

ここで登山ルートガイドをチョット紹介。

管内側からの登山口で、水上村森林セラピーロードマップにも紹介されている市房林道側からのルートを紹介します。このルートは市房神社への参道三合目付近に合流し、本ルートの八丁坂に至るルートです。八丁坂沿いには新夫婦杉・千手観音杉などの巨杉が威厳を持ってそびえ立ち、そこを通りすぎると四合目の市房神社（中宮）に至ります。ここからいよいよ本格的な山道となり丸太組の梯子道、

木の根が交錯する山道など普段では経験出来ないワイルドでスリリングな登山道

道を息を切らして登ること3時間余り、やや緩やかな登山道になればもう一頑張り、山頂に立てば、東に遠く太平洋を望み、北西に重畳する山岳地と有明海を隔て雲仙岳の山容、北に阿蘇山、祖母山両高峰が眺められ、南に霧島の連山を遠望出来る壮大なパノラマが皆さんを迎えてくれますよ。それから、山頂近くにチョックストーン（心見の橋）心清き人でないと渡れない橋があります。一度お試しあれ。



山頂付近にあるチョックストーン



熱心に意見交換を行う参加者＝熊本南部

路網検討会で意見交換

【熊本南部森林管理署】人吉建設会館において、関係林業事業体や当署職員約60人が参加し、「路網検討会」を開きました。当署では、丈夫で簡易な使いやすしい道づくりを進めていくために、昨年度開設した森林作業道について路網プロジェクトチームによる現地検証を行ってきました。今回は、その結果を基に各班に分かれて検証結果の発表の後、意見交換を行いました。また、高木周一企画官が「失敗に学び、次の成功に活かす」道づくりについて説明。参加者からは発注者、受注者それぞれの立場から活発な意見が出され、今後の路網整備への取り組みに反映させることとしています。

進フォレスター活動報告会を開催 九州各県より32人集合

2月27日、28日、九州森林管理局大会議室において、「進フォレスター活動報告会」を開き、九州各県から、県職員24人、国有林職員6人の進フォレスターと林業事業体の森林施業プランナー2人が参加しました。

当報告会は、各地域の取組や課題を共有し、議論・意見交換をすることにより効果的な市町村林業行政の支援を行うことを目的に開かれたものです。

はじめに、矢野彰宏九州森林管理局計画部長が「九州からの森林・林業の再生に向けて、民・国連携して取り組んでいきましょう



グループの課題について発表する代表

う」と挨拶。その後、活動事例報告が行われました。

国有林からは甲斐博文大隅森林管理署企画官が、国有林における安定供給システム販売と鹿児島県内の進フォレスターが「進フォレスター等活動推進連絡協議会」を設立し、地域の森づくり推進のために活動している取組について、続いて銭坪司剛長崎県島原振興局林業普及指導員が、市の林業担当者と地域振興のための市町村森林整備計画の策定支援をしている取組と課題解決に向けた活動について、鹿児島県(株)田中林業の田中佑樹森林施業プランナーが、里山の再生を目指して地域の森林を集約化、森林経営計画を作成し、森林所有者の目線に立って行っている取組について報告され、それぞれに活発な意見交換が行われました。

2日目は、課題別にグループで議論、発表し、全員で意見交換を行いました。活動に当たって抱える課題などは、地域によってさまざまですが、今回の報告会が少しでも

課題解決のヒントになり、効果的な活動につながることを期待します。

（担当）技術普及課 民有林と国有林で連携

【大分西部森林管理署】当署

では、大分北部と西部流域の三地域で森林整備推進協定を締結しています。このほど、協定関係者三者と協定に定めた運営会議を開き、協定の更新、今後の事業計画、路網をはじめとする連携の進め方などを話し合いました。会議後は、大分県と管内の市町の担当者を交えて、県営林の長期育成循環施業モデル林を視察し、県の森林づくりビジョンを学んだ後、別府森林事務所管内の間伐箇所、高性能林業機械の実演視察を行いました。



高性能林業機械に関心を示す＝大分西部

間伐現場では、一台で伐倒・路網作設をこなすフェラーバンチャザウルスロボに関心が集まり、低コスト生産への取り組みの必要性を学びました。

分収造林地で植樹祭

【都城支署】小林市と北霧島

水源の森づくり推進会議の共催で、小林市東ノ浦国有林の分収造林地で植樹祭があり、都城支署職員3人が参加しました。これは、湧水のまちである小林市の水源を守るために、平成21年度から地域住民および企業・ボランティアを募り、どんぐりの木となるカシ、コナラなどを毎年植樹しているものです。この模様は、新聞などに掲載され森林のもつ水源涵養などの重要性を広く周知されました。



植樹祭へ参加されたみなさん＝都城



現地ではこわなの実演を実施＝熊本南部

シカ被害対策学習会を開催

【熊本南部森林管理署】当署

と熊本県球磨地域振興局などの共催で、人吉市において「球磨川流域シカ被害対策学習会」を開き、市町村、森林組合、農協関係、猟友会など約90人が参加し、シカ被害による農林業被害の実態や対策およびシカ肉の加工・販売について情報の提供・共有を行いました。また、午後からは紅取団地県有林で森林技術センターによる「巾着式網はこわな」の実演も実施。参加者からは、有害駆除の実態や対策について活発な意見・要望が出るなどシカ被害の深刻な現状が窺え、今後とも関係機関などが連携して情報を共有し、球磨川流域のシカ被害対策につなげていくことを確認しました。

「コウヤマキ」の樹齢調査

【西都児湯森林管理署】西都市吹山国有林にあるコウヤマキは、林野庁の「森の巨人たち百選」に選定されていて、その樹齢は推定約200年と公表されています。しかし、幹周りが396㎝もあり、公表樹齢を疑問視する声もあるため、樹齢の調査を樹木医に委託したところ、測定値の解析結果を基に、その樹齢を総合的に判断した結果、推定樹齢約350年との成果を



コウヤマキの樹齢測定を行う＝西都児湯

得ました。今後とも、多くの人が来てくださるよう、「コウ

ヤマキ保護協議会」と連携しながら保全活動に取り組みます。

植樹祭に200人が参加

【北薩森林管理署】2月23日鹿兒島県長島町指江の町文化ホール敷地内で、北薩地区植樹祭が開かれました。これは当署、北薩地域森林・林業振興協議会などが主催し、各市町村などが持ち回りで2年に1回開催しているものです。当日は、関係者約200人が参加し、文化ホールで各種表彰、スローガン採択の



植樹に取り組む出席者＝北薩

後、会場を敷地内の植樹場所に移し長島町の町木であるヤブツ

バキとヒメシャリンバイを出席者が植樹しました。

森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室で、本年度第五回目の「森のセミナー」を開き、約40人が受講しました。午前の部は環境省希少野生動物植物種保存推進員の乙益正隆氏による「人吉球磨地方の植物の現状と今後」と題し、気候の特性による植物の分布や絶滅危惧種などについて学びました。午後の部では、植物の構造などについて学んだ後、石神智生署長が植物標本の作り方について実演を交えた講話を行いました。参加者は、環境変化や人の手によって絶滅した植物が多いこと、種類でも多く後世に伝えていくことの大切さについて理解を深めました。

「郷土の森」フォレストピア石河内の取組

緩やかに蛇行してゆく小丸川の流れ、目下に伸びる一本の道路、そしてそこに寄り添うような集落。川の対岸には、武者小路実篤が理想郷として開村（大正7年）した「日向新しき村」が広がる。

樹祭を開いたのが始まりです。コウヤマキの古木を利用して看板を設置したのを記憶しています。

高鍋造素協、西都児湯森林管理署の4者による保全協議会を立ち上げて環境整備が行われ、それが毎年の行事になってきました。

来年度以降木城町全体に参加者を呼びかけて継続していきたいと思いますが、どれだけの理解を得られるか不安はあります。

展望台から見ると山々は、少しもその姿を変えなくなるとそこにあり、そこで働いた人々の想いが満ちています。

その後ろに連なる広大な山、そのほとんどが国有林です。この故郷「石河内」が全望できる



「郷土の森」フォレストピア石河内保全協議会 会長

神田 直人 さん
庭先から国有林で、地区のほとんどが国有林に係わって生活してきた地域にとって林業の衰退は、若者が地元を離れる原因となりました。

昨年、石河内小学校が閉校となり、子供の姿を見ることもなくなりました。

故郷に感謝しつつ自分たちがこれから故郷に対して何をすればいいのか考える日々です。先人たちが流した汗とその想いの中で、「郷土の森」のサクラが今年も満開の花を咲かせます。



場所に「郷土の森」が開設されたのが昭和63年です。当時高鍋営林署が憩いの場にしようと植

以後、この森の一角に地元の人々が思い思いサクラなどを植栽し、石河内小学校の児童が小鳥の巣箱を掛けたりしました。

元を離れる原因となりました。

昨年、石河内小学校が閉校となり、子供の姿を見ることもなくなりました。

植物標本作りを学ぶ参加者＝熊本南部



植物標本作りを学ぶ参加者＝熊本南部

平成24年度間伐推進コンクール表彰式 最優秀賞1社と優秀賞3社

平成24年度の間伐推進コンクールにおける表彰式を、2月27日局長室において行いました。

今年度は、管内各署などから8事例の応募があり、10月に外部委員を交えた審査会を開き、その中から優秀な事例4点を選出するとともに特に優秀であった事例を林野庁で開かれる国有林間伐推進コンクールに推薦しました。

その結果、大分西部森林管理署管内の「久大林産株式会社」が林野庁長官最優秀賞に選ばれ



平之山局長と表彰された関係者の皆さん

ました。その紹介と合わせて九州森林管理局長優秀賞の3団体に平之山俊作局長から授与しました。

その後、受賞者4団体と局関係者による意見交換会を行い、受賞事例の紹介や現場で抱えている様々な問題点などについて



宮部 芳照さん



緑豊かな森林（もり）に出会うことで、こころ癒される人は多いと思う。日々の慌しい暮らしの中で、幼い頃から山野での生活体験が少ない世代にとって自然のすばらしい緑の景観にはこころ魅かれるだろう。これは、きつとわれわれ人間の中に脈々と引き継がれてきた遺伝子

意見交換がなされました。受賞者の方々は、次のとおりです。

- ・久大林産株式会社
- ・九州森林管理局長賞（優秀賞）
- ・有限会社江藤索道
- ・大分愛林有限公司
- ・八重尾林業有限公司

（担当：資源活用課）

白砂青松の森をめざし植樹

【北薩森林管理署】3月2日

のせいだと思う。

小生がモニターを希望したきっかけは、若い頃、そこには田畑があり、雑木林が広がり、鎮守の森もあった。特に、子どもたちの格好の「遊びの場」、「学びの場」であったふるさとの景観が今では無機質な産業廃棄物捨て場の空間に変わり果て、貴重な「郷土の森」の消滅が散見されるようになってきたからである。消えた里山林の復元はまだ遅くない。いや、今まで以上に森林の身近な利用が出来ないものかとの思いが一層強くなってきたこの頃でもあった。

親しみを感じる森林整備

森林の価値は、めぐることも繋がることを考える。

実際に進められ、森林とのふれあいの場も増えてきたのは事実であるが、しかし、まだまだ「親しみを感じる森林」は少ないのが実感である。勿論、ROSの考え方を否定するものではないが、優先順位として、まず子どもたち、高齢者、身体の不自由な人にとっても、「国民の森」

一般国民にとって利用しにくい遠



植樹に取り組む参加者＝北薩

として奥山へもある程度のとてろまで近寄りやすい歩道、施設などの整備に関して細かく配慮した施策が優先されてよいと思う。このことが、何よりも国民に親しまれる森林になる早道になり、これがひいては一般国民に森林・林業への理解を一層深めることにも繋がることを考える。

「経済」という物指しだけでは到底測りきれないものであり、国民総力あげての「森林文化」とも言うべきものの創出を期待しながら、小生も微力ではあるが、森林づくりボランティアとして今後も活動を続けたい。

（鹿児島県始良市在住）

転任挨拶

お世話になりました



前 森林整備部長
柳田 真一郎

平成22年9月から九州局に初めて勤務させていただきました。この間、森林整備、木材の生産・販売、治山業務を始めとし

て、新燃岳及び九州北部豪雨対応、新たな道である林業専用道の開設、低コスト造林、木材価格下落対策、森林共同施業団地などに取り組むことができたことは、貴重な経験であり、大きな宝となりました。

九州局の皆さんが、これまで培ってきた力をさらに伸ばして、地域林業、ひいては全国の先駆けとなり続けていくことを信じています。

私が取組むことができたのは、目の前の課題をあきらめず取組む姿勢とトライする気持ちを持つ職員の方のおかげです。

これから国有林は一般会計といましました。

人のうごき

3月31日付林野庁長官発令
退職（独）水資源機構

柳田真一郎（森林整備部長）
計画保全部長

井野常雄（森林整備部治山技術専門官）

中山浩次（関東局福島森林管理署長）

4月1日付林野庁長官発令
業務管理官

森林整備部長
矢野彰宏（計画部長）

上田浩史（林野庁森林整備部計画課海外林業協力室長）

佐賀森林管理署長
森勇二（大分西部森林管理署長）

地域木材情報分析官

熊本森林管理署長
熊本義春（鹿児島森林管理署長）

西林寺隆（四国局総務部長）
総務企画部長

大分西部森林管理署長
入口了（北海道局後志森林管理署長）

竹花祐治（総務部長）

林野庁林政部林政課監査官
佐藤隆幸（沖縄森林管理署長）

林野庁国有林野部業務課技術開発調査官（国有林野部経営企画課併任）

宮崎北部森林管理署長

総務企画部企画調整課長

吉本昌朗（林野庁国有林野部経営企画課経営計画官）

担当

谷口文敬（総務部専門官（契約適正化））

総務企画部総務課長

肥後幸男（総務部専門官（契約適正化））

井廣二（総務部総務課長）
総務企画部経理課長

浪崎晃（総務部専門官（契約適正化））

追口親（総務部経理課長）
計画保全部計画課長

一本讓（計画部流域管理指導官）

河野裕之（計画部計画課長）
計画保全部保全課長

樋口浩（計画部自然遺産保全調整官（屋久島駐在））

山本博（計画部国有林野管理課長）
計画保全部治山課長

矢島欣也（計画部企画官（技術開発））

山部義臣（福岡森林管理署次長）
計画保全部治山課長

山下和也（長崎森林管理署次長）

森林整備部資源活用課長

大川有一（森林整備部専門官（災害調整））

古閑博行（森林整備部販売課長）
森林整備部技術普及課長

前田三文（四国局森林整備部企画官（販策戦略））

濱田秀一郎（計画部指導普及課長）
森林整備部森林技術・支援センター所長

計画保全部西表森林生態系保全

杉野恵宣（計画部森林技術センター所長）
林野庁森林整備部計画課長補佐（森林計画指導班担当）

計画保全部治山技術専門官

城風人（企画調整室長）
総務企画部専門官（契約適正化担当）

計画保全部屋久島森林生態系保全

福嶋雅喜（計画部自然遺産保全調整官）
総務企画部専門官（契約適正化担当）

計画保全部西表森林生態系保全

セノター所長

当)

井田篤雄(林野庁国有林野部
管理課監査官)

石橋暢生(計画部企画官(自
然再生担当))

森林整備部企画官(間伐推進担
当)(都城支署駐在)

総務課企画官(安全衛生担当)
山本一則(森林整備部企画官
(間伐推進担当))

鎌田敏雄(大分森林管理署次
長)

企画調整課監査官
大倉孝行(佐賀森林管理署
長)

森林整備部企画官(供給戦略担
当)

企画調整課監査官
園田克美(宮崎森林管理署次
長)

前杉成美(大隅森林管理署次
長)

林野庁林政部企画課税制専門官
野邊忠司(企画調整課監査官)

森林整備部企画官(木材需給対
策担当)

林野庁林政部企画課税制専門官
野邊忠司(企画調整課監査官)

西栄二(企画調整室監査官
(労務))

福岡森林管理署次長
峰内浩昭(計画課課長補佐)

森林整備部企画官(技術開発担
当)

長崎森林管理署次長
山下義治(計画部上席自然再
生指導官(西表森
林環境保全ふれあ
いセンター所長))

森林整備部企画官(技術開発・
普及担当)

西都児湯森林管理署次長
下崎哲也(職員厚生課課長補
佐)

古市真二郎(計画部企画官
(技術開発・普及
担当))

宮崎森林管理署次長
木林静夫(西都児湯森林管理
署次長)

森林整備部企画官(自然再生担
当)

宮崎南部森林管理署次長

新規採用者紹介

当局では4月1日付で、2人を採用し、次のとおり配属しま
した。

☆一般職(大卒)林学
亀岡大真(福岡署)

☆一般職(高卒)林学
浦田紘伸(宮崎署)

赤星良治(治山課課長補佐)

企画調整課企画官(情報システ
ム管理担当)

技術普及課企画官(民有林連携
担当)

大隅森林管理署次長
中村公治(宮崎森林管理署都
城支署総務課長)

山下憲明(企画調整室)
計画課計画調整官
宮崎太守(計画課)

甲斐博文(大隅署)
森林技術・支援センター副所長
後藤寿也(森林技術センター)

復興庁出向
坂之上勘太(企画調整室監査
官(都城支署駐
在))

保全課鑑定官
東誠也(国有林野管理課)

福岡署 森林技術指導官
岩下哲博(企画調整室)

4月1日付森林管理局長発令
溝越啓二(経理課)

保全課測定技術指導官
押方清隆(計画課)

佐賀署 森林技術指導官
内村圭一(佐賀署)

古島勝美(指導普及課)

治山課設計指導官
山内正(治山課)

長崎署森林技術指導官
沼津浩明(大隅署)

総務課課長補佐(総務担当)

西表森林生態系保全センター生
態系管理指導官(計画課)

熊本署森林技術指導官
田代清(熊本署)

企画調整課課長補佐
森本明(企画調整室)

久保田修(鹿兒島署)

熊本南部署森林技術指導官
上村五十記(熊本南部署)

経理課課長補佐
福山拓也(経理課)

屋久島森林生態系保全センター
生態系管理指導官
猪島浩晴(屋久島森林環境保
全センター所長)

大分西部署森林技術指導官
山本純也(大分西部署)

計画課課長補佐
下田勝也(佐賀署)

屋久島森林生態系保全センター
生態系管理指導官
坂梨哲章(沖縄署)

大分署森林技術指導官
本田司(大分署)

保全課課長補佐
廣田忠善(国有林野管理課)

治山課課長補佐
富永雄二(林野庁)

宮崎北部署森林技術指導官
日田仁志(熊本署)

森林整備課課長補佐
久保幸治(森林整備課)

屋久島森林生態系保全センター
生態系管理指導官
吉田真佐也(森林整備課)

宮崎南部署森林技術指導官
出水広(宮崎署)

資源活用課課長補佐
高木周一(熊本南部署)

西表森林生態系保全センター自
然再生指導官
酒井昭則(経理課)

北薩署森林技術指導官
長洲直(森林整備課)

宮崎健次(職員厚生課)

渡邊昭博(指導普及課)

鹿兒島署森林技術指導官
築川伸一(指導普及課)

技術普及課課長補佐
松永真弥(国有林野管理課)

山口照秋(長崎署)

大隅署森林技術指導官
田上正文(大隅署)

企画調整課企画官(情報処理担
当)

古川浩児(指導普及課)

屋久島署森林技術指導官

岩本清文(屋久島署)

奥村克(販売課)

沖繩署森林技術指導官

坂梨豪俊(指導普及課)

福岡署地域林政調整官

迫口実(福岡署)

佐賀署地域林政調整官

山部国広(屋久島署)

長崎署地域林政調整官

甲斐孝生(指導普及課)

熊本署地域林政調整官

桑原英隆(宮崎署都城支署)

大分署地域林政調整官

楠本哲也(宮崎南部署)

宮崎署地域林政調整官

濱田辰広(指導普及課)

鹿児島署地域林政調整官

古閑智之(宮崎署)

沖繩署地域林政調整官

宮武文典(国有林野管理課)

福岡署総括事務管理官

杉野隆二(福岡署)

佐賀署総括事務管理官

本田博邦(職員厚生課)

長崎署総括事務管理官

小原豊治(長崎署)

熊本署総括事務管理官

熊本南部署総括事務管理官

阿南一義(大分署)

大分西部署総括事務管理官

廣石功(大分西部署)

大分署総括事務管理官

山崎泉(鹿児島署)

宮崎北部署総括事務管理官

篠村和希(総務課)

西都児湯署総括事務管理官

山崎勇勝(西都児湯署)

宮崎署総括事務管理官

一口哲美(治山課)

宮崎署都城支署総括事務管理官

江藤幸二(熊本南部署)

宮崎南部署総括事務管理官

草野秀雄(宮崎南部署)

北薩署総括事務管理官

中村昭一(宮崎北部署)

鹿児島署総括事務管理官

瀬戸寛(鹿児島署)

大隅署総括事務管理官

原田太(大隅署)

屋久島署総括事務管理官

和田誠二(北薩署)

沖繩署総括事務管理官

永田豊(沖繩署)

福岡署総括森林整備官

本田勝美(北薩署)

佐賀署総括森林整備官

田中和利(計画課)

長崎署総括森林整備官

村上國男(企画調整室)

熊本署総括森林整備官

渡邊健一郎(熊本署)

熊本南部署総括森林整備官

白濱正明(大隅署)

大分西部署総括森林整備官

鹿田純吉(大分西部署)

大分署総括森林整備官

有吉正司(大分署)

宮崎北部署総括森林整備官

木村宏(宮崎北部署)

西都児湯署総括森林整備官

飯星明(西都児湯署)

宮崎署総括森林整備官

上別府悟(宮崎署)

宮崎署都城支署総括森林整備官

大岩根強(宮崎署都城支署)

宮崎南部署総括森林整備官

吉田弘幸(宮崎南部署)

北薩署総括森林整備官

志賀栄一(森林整備課)

鹿児島署総括森林整備官

藤川晃久(鹿児島署)

大隅署総括森林整備官

高木勝一(企画調整室)

屋久島署総括森林整備官

鍾水隆憲(福岡署)

沖繩署総括森林整備官

三吉康治(国有林野管理課)

福岡署総括治山技術官

高森好文(治山課)

長崎署総括治山技術官

吉田正一(治山課)

熊本署総括治山技術官

田中國康(熊本署)

熊本南部署総括治山技術官

一口竜也(熊本南部署)

大分西部署総括治山技術官

古庄誠司(大分西部署)

大分署総括治山技術官

兒玉祐二(大分署)

宮崎北部署総括治山技術官

井勝吉(屋久島署)

西都児湯署総括治山技術官

田代美喜男(西都児湯署)

宮崎署総括治山技術官

藤田康孝(宮崎署)

宮崎署都城支署総括治山技術官

井孝次(治山課)

北薩署総括治山技術官

植薄和彦(北薩署)

鹿児島署総括治山技術官

山田茂(宮崎署都城支署)

大隅署総括治山技術官

間宮学(大隅署)

屋久島署総括治山技術官

久保田利郎(宮崎北部署)

福岡署地域統括森林官

長い間ご苦労さまでした

◇定員内職員◇・・・11人

3月31日付林野庁長官発令

工藤篤(熊本署)

中村実敏(治山課)

森保廣(総務課)

3月31日付森林管理局長発令

本山和行(職員厚生課)

池田俊彦(長崎署)

下村康広(熊本南部署)

藤田知之(大分署)

泊喜代隆(鹿児島署)

舟浮俊明(沖繩署)

曾我部亮輔(森林技術センター)

黒川健二郎(佐賀署)

◇定員外職員◇・・・28人

3月31日付森林管理局長発令

岡田則雄(福岡署)

廣幡澄清(長崎署)

堀出剛(長崎署)

佐田洋行(熊本南部署)

愛甲一臣(熊本南部署)

田邊重徳(大分西部署)

佐藤秀成(大分署)

高山好一(大分署)

神田忠行(西都児湯署)

白坂辰美(宮崎署)

横山繁夫(都城支署)

奥野健治(都城支署)

石黒和廣(宮崎南部署)

寺尾勉(宮崎南部署)

東條治満(北薩署)

植村隆三(北薩署)

種子嶋洋一(北薩署)

竹之下兼良(北薩署)

中村敏春(北薩署)

平尾政美(北薩署)

藤垣孝一(鹿児島署)

藤本義明(大隅署)

木場高男(大隅署)

奥村勝(大隅署)

齊藤正繁(屋久島署)

岩川貴美夫(屋久島署)

佐伯朋文(屋久島署)

東條正純(屋久島署)

渡辺行直（福岡署）
熊本署地域統括森林官

佐藤英也（宮崎北部署）

熊本南部署地域統括森林官

岡本政秀（熊本南部署）

大分西部署地域統括森林官

井上信義（宮崎北部署）

大分署地域統括森林官

渡邊豊（指導普及課）

宮崎北部署地域統括森林官

村上利晴（宮崎北部署）

宮崎署都城支署地域統括森林官

郷原寛美（宮崎署都城支署）

北薩署地域統括森林官

塩根勝（北薩署）

鹿児島署地域統括森林官

宮本和久（北薩署）

大隅署地域統括森林官

下岩守（宮崎署都城支署）

（担当＝総務課）

「ふれあいの森」植樹300人参加

【福岡森林管理署】当署管内中裏付国有林で奈多植林会主催によるマツ苗植栽が行われました。当日は、地元奈多地区住民など約300人が植栽方法の説明を受けた後、丁寧に2000本を植え付けました。奈多植林会は、平成11年に設立され、平成13年に『ふれあいの森』協定を結び、毎年4回の下刈・除伐植樹といった活動を行っています。住民による熱心な取り組み

に、当署としても引き続き支援してまいります。



マツ苗を丁寧に植え付ける児童ら＝福岡

内之浦地域森林整備推進協定調印式

【大隅森林管理署】鹿児島県

肝付町、（株）島津興業、小山川林業の各団体の代表者と当署を含む関係者15人が出席し、内之浦地域森林整備推進協定更新の調印式を行いました。これまでの協定は平成23年に締結し、これまでの2年間にわたって、協定者が連携して、共同作業団地における間伐や路網作設などの森林整備を進め、システム販売を通じて民有林材の出荷や低コスト林業に向けた技術交流などを行ってきました。これまでの取組成果を踏まえ、新しい協定に基づき、一層効果を高めるように取組んでいく考えである

り、今後、運営会議で具体的な検討を行うこととしています。



協定書に調印を済ませた各代表＝大隅

民有林へ林業専用の技術的支援を実施

平成11年8月、中部局南信署諏訪事務所長として赴任した。偶然にもその庁舎は昭和32年新築で私と同年齢



命名

「イスノキの間」!!

で、その庁舎の床にイスノキのフローリングが使われていた。平成13年8月の事務所廃止の際の首席森林官事務所に設置に伴い、そのフローリングを使うため必要数を所長室から剥いでいると、裏面に「鹿児島営林署木工場」と印刷され

ていることから、速やかに引き取った。そしてこの度、総務企画部長室を新設することから、そのイスノキのフローリングを使うこととした。ちなみに、昭和41年の局機関誌「暖帯林」な

（総務企画部長 竹花祐治）

に取り組んでいくこととしています。



開設した林業専用道で説明を受けるメンバー＝鹿児島

【鹿児島森林管理署】当署が23年度に開設した林業専用道において始良・伊佐地域森林・林業活性化センター森林保全部会のメンバー約10人が参加し、現地研修を行いました。当日は、講師の依頼を受け、当署の土木係長が、路線選定や排水施設、残土処理工法などや、設計施工に当たっての基本的な考え方などを指導しました。参加者は、今後、地域の民有林で林業専用道を計画していることもあり、本研修の成果が、地域における森林・林業活性化の一助となるよう熱心に施工技術などを学びました。今後も、関係者からの要請に基づき引き続き民有林支援

していた。時の局長小園春雄氏（宮崎大学卒、S47入庁）は、イスノキのことを存じて、残ったフローリングを全部中部局の倉庫に保存された。私が当局に赴任し、そのことを思い出し、中部局に確認したところ現存し

どによると現在の局長室は「やくすぎ」、元総務部長室（現次長室）は「しおじ」、企画部長室は、「きりしま赤松」そして森林整備部長室は「けやき」が壁に貼られている旨紹介されており、新総務企画部長室はイスノキを床に貼る

ので「イスノキの間」と勝手に命名したい。この

の度約12年ぶりに再会したイスノキ。そして九州局で60年ぶりに蘇ったイスノキ。今後とも、末永くよろしく。

「一枚の紙から考える森林・地域・循環」
木になる紙シンポジウム福岡市で開催
〜全国から約70人が参加〜

3月16日、福岡県福岡市リファレンス博多駅前において、木になる紙シンポジウム「一枚の紙から考える森林・地域・循環」が福岡で開催され、九州各地や全国から約70人が参加しました。

「木になる紙」は、豊富な未利用資源である間伐材を、最も身近な木質製品である「紙」として有効利用し、売り上げの一部を山に直接還元することでさらなる間伐の推進を図る取組です。

シンポジウムではまず、林業経済学が専門の藤掛一郎宮崎大学教授より「日本林業はいかに木材の価値を高めうるか」、続いて、



矢野計画部長による開会あいさつ

「木になる紙」の取組の創設期に携わった肥後賢輔林野庁整備課長より、「木材利用の現状と課題」と題して基調講演が行われました。基調講演では、木材資源が充実しつつあるにもかかわらず、国産材利用が低位にある現状や、今後利用率を高めていくためのさまざまな施策が紹介されました。また、木材資源を「たたく売り」しない



ヒイラギは自生するそうですが自生しているのを見たことがありますか。オオモクセイ、ウズモクセイ、シマモクセイは観察したことはありません。

ヒイラギは鋸歯に鋭い刺があることで知られていますが、成長して胸高直径15cmをこえる頃から葉がだんだん円くなってきます。白い花が咲いた時に刺がなくなることから、この花は何ですかと聞かれ、ヒイラギと教えてもあまり信用されません。

ヒイラギは魔除けに使われます。節分にはイワシの頭をヒイ

ために価格決定権を持つことの重要性が述べられ、その案として認証制度が挙げられました。「木になる紙」の仕組みは、「『紙』をツールに山へ還元する」という目的が非常に明確で、認証制度としても優れていると評価されました。続いてのパネルディスカッションでは、木材利用における、社会のさまざまな立場からの協力や連携のあり方について議論されました。会場からも熱心な質問や意見が出され、密度の濃いシンポジウムとなりました。



パネルディスカッションの様子

(担当)企画調整課

66 ヒイラギ (モクセイ科)

らだと思われま



ラギの枝に刺して玄関に飾って魔除けにし、リースにヒイラギの葉を使うのも同じ意味です。昔のケーキにはヒイラギの葉に赤い実を飾り付けてありましたが、ヒイラギの実は黒色です。西洋のケーキには、ヒイラギモドキの葉と赤い実が飾り付けてあり(筆者の推測)、日本へ来たときに葉が入れ替わったのでしょうか。苛性ソーダを使って葉の葉脈を作りますが、試し作りをして葉を選ぶことが大切です。しっかり出来上がるのはヒイラギです。葉脈が大きくて強いことが



今年の熊本城の桜は鮮やかで雨風が無く気温が冷え込んだせいで例年より長く多くの人を楽しませてくれた▼送別の宴に向かう途中の、桜の下での写真は良い記念となった▼4月になり国有林の一般会計がスタートした。局では部や課の名称が変わり係も課を異動した▼著などもグループ制となりほとんどの職員に人事異動通知書が手交された▼新たなポストもあり、多くの職員が期待と不安と戸惑いの中でのスタートではあるが、まずは前向きに一步一步進めることだと思おう▼グループ制とは言うまでもなくグループ内での担当は決まっているがお互いが助け合いながら業務を進めること▼グループ制の利点を生かし、今後署などの業務が円滑に進められるよう願っている▼私のいる総務課も職員厚生課と統合された。係の数や職員数が大幅な減となった。総務課はグループ制ではないが、お互いの応援態勢をお願いした▼一般会計化後の国有林の柱である公益的機能の一層の発揮や、民間支援が今まで以上に円滑に進められるよう願う。(一)